

## アニメ『涼宮ハルヒ』の聖地・西宮

### 【はじめに～講演の意図】

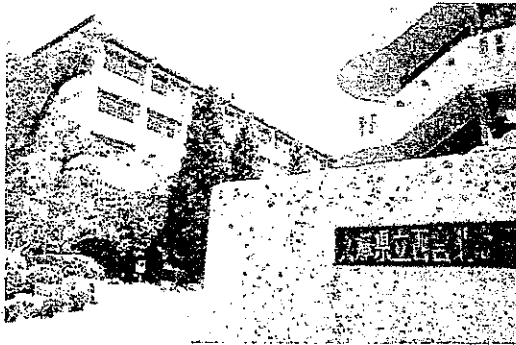
西宮市は、村上春樹が育った街であり、また、アニメ『涼宮ハルヒの憂鬱』の舞台として世界中のアニメファンの「聖地」ともなっています。

今回は『涼宮ハルヒ』シリーズを題材に取り上げ、同名ライトノベルを原作としたアニメ作品と、舞台となった西宮の土地の関係、特に「ライトノベルと文学の可能性」、「関西発の文学やアニメが世界で愛好されている理由」などを論じます。

### 1. アニメ/ラノベ『涼宮ハルヒ』シリーズの話題性

《涼宮ハルヒ“聖地”高校の憂鬱 無断撮影や巨大落書き（2010年5月6日産経より）

若者に人気のSF系学園小説『涼宮ハルヒの憂鬱』の舞台モデルとなった兵庫県西宮市の県立西宮北高校が、一部のファンのマナー違反にさらされている。「聖地巡礼」として訪れたファンが無断で敷地内に侵入し、グラウンドに白線で巨大文字を落書きしたり、校舎内に入ろうとしたりして警察が出動する騒動にも発展。（後略）



※『涼宮ハルヒ』シリーズの作者・谷川流の出身校であり、アニメ化された同作品の舞台である高校

《『涼宮ハルヒ』と同じメニュー、椅子にファン満足（2010年5月8日産経より）

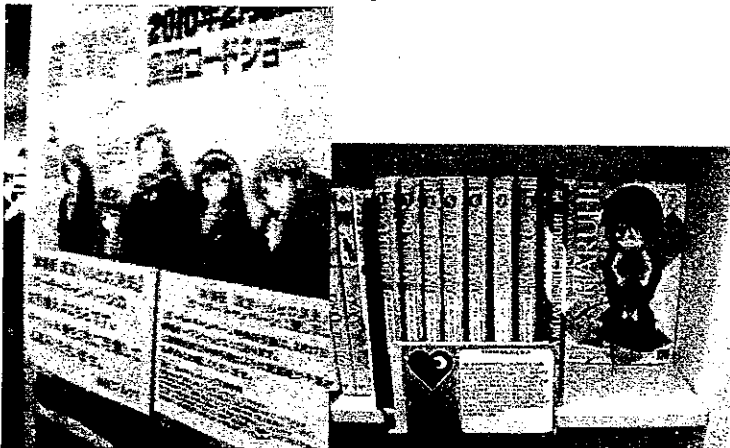
作家、谷川流さんの若者向け小説『涼宮ハルヒの憂鬱』、とっぴな言動で周囲を振り回し、この世の不思議を探ろうと「SOS団」と名付けた部活を設立するハルヒ。思ってもみない非日常的な事件がどんどん展開していく学園SFだ。シリーズ化され、アニメにもなった。制服はセーラー服で、メイドの格好をさせられるかわいらしい生徒も登場するいわゆる「萌え系」。アニメの中で、ハルヒたちSOS団行き付けの喫茶店として描かれた舞台が、実は、阪急西宮北口駅前の「にしきた商店街」の中にあつた。自家焙煎が売りの「珈琲屋ドリーム」（西宮市甲風園）。謎のような現象や面白いものを探しに街を探索しようとハルヒが提案し、その打ち合わせの場として登場する。（後略）



※アニメ版『涼宮ハルヒ』に描かれた喫茶店では七夕にファンが「巡礼」に訪れて短冊を吊るす。

## 2. アニメは日本が海外発信する強力なコンテンツ

いまやアニメキャラが歌う曲がオリコンチャートの首位を独占する時代です。アニメの舞台探訪の話題がニュースになるなど、一大ブームを呼び起こした『涼宮ハルヒの憂鬱』は、現代日本が海外発信する強力なコンテンツの一つといえます。



※今年2月に公開された映画『涼宮ハルヒの消失』は大ヒット／海外でも原作マンガが大人気。

中でも注目すべきは、このアニメ作品が関西在住の作家の作品を原作とし、京都のアニメ会社が制作、作品舞台も阪神間であることです。『涼宮ハルヒ』という、世界を魅了するアニメを創り出した関西文化の底力は、どこにあるのでしょうか？

その秘密を、次の3つのキーワードで考えます。

- ・「メタフィクションを受容する土地柄」～小松左京や筒井康隆：関西SF文学の伝統
- ・「京都と阪神間の風景」～アニメで描かれた古きよき風景：失われた阪神間の風景
- ・「関西発のコンテンツ」～京アニ（ハルヒ）やガイナックス（エヴァ）を生んだ土壌

## 3. ハルヒとハルキ

『涼宮ハルヒの憂鬱』は、その原作のライトノベルも含めて、村上春樹の作品世界との親近性を持っている点が3つ挙げられます。

その1：作品舞台として阪神間の土地を描いていること。

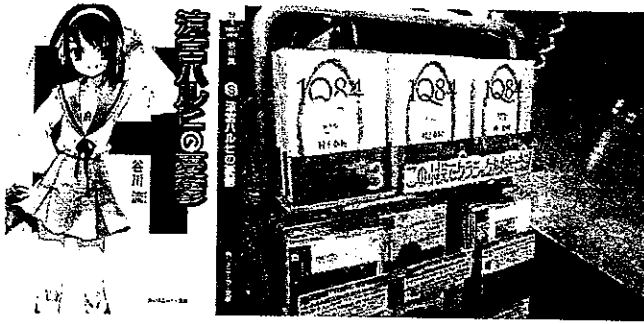


※『涼宮ハルヒ』で主人公たちが待ち合わせる西宮北口駅前／村上春樹の故郷で作品舞台でもある芦屋

その2：どちらもSF的作品であること。

その3：「ボーイミーツガール」を描いた典型的な青春小説的作品であること。

ところが意外にも、この両者を並べて論じた試みは、いまだありません。だからこそ、この論考を通じて今の日本、そして世界で求められる物語とはなにか、その秘密を探り出すことを試みたいと思います。



※ シリーズ最近刊『涼宮ハルヒの分裂』は、村上春樹『1Q84』のようにパラレルワールドを描く。

#### 4. ハルヒとハルキの風景

##### (1) 『涼宮ハルヒ』の主な作品舞台（ウィキペディアの解説より）

《原作では文中でほのめかされている程度で明確には示されていないが、アニメ版では兵庫県を舞台にしていることが明かされている。作中での背景は実際の風景が再現されており、主人公達が通う「県立北高等学校（北高）」のモデルは、原作者・谷川流の出身校である兵庫県立西宮北高等学校で、話の舞台は西宮市となっている。これに合わせて、第2話の席替えのくじ引きシーンに使用された空き缶は、関西ではなじみの薄い鳩サプラーからゴルフ（神戸風月堂）のものに変更された。なお、アニメでの登場人物の会話は標準語のみで行われている。これは原作に従ったもので、作品内での地理描写が実際の兵庫県内の地理条件と完全に一致していないためである。原作でも、会話はほぼ総て標準語である。この他、尼崎市の中央商店街や三和本通商店街が祝川商店街として、大阪府大阪市の梅田駅周辺が閉鎖空間の入口として、西宮市高木東町にある Sports Dome かわらぎがハルヒ達が遊びに行くバッティングセンターとして、それぞれ撮影の舞台になっているなど、多くの箇所でロケハンが行われた。なお、兵庫県は、これら舞台として使われた実在の施設を、観光コースとして整備することを表明している。》

##### (2) 「村上春樹」の小説に描かれた阪神間の例

###### ●初期三部作

（風の歌を聴け／1973年のピンボール／羊をめぐる冒険）

※引用【時間はたっぷりあったし、するべきことは何もない。僕は街の中をゆっくりと車で回ってみた。海から山に向かって伸びた惨めなほど細長い街だ。川とテニスコート、ゴルフ・コース、ずらりと並んだ広い屋敷、壁そして壁、幾つかの小奇麗なレストラン、ブティック、古い図書館、月見草の繁った野原、猿の檻のある公園、街はいつも同じだった。

僕は山の手特有の曲りくねった道をしばらく回ってから、川に沿って海に下り、川口近くで車を下りて川で足を冷やした。テニス・コートではよく日焼けした女の子が二人、白い帽子をかぶりサングラスをかけたままボールを打ち合っていた】（『風の歌を聴け』より）

###### ●阪神大震災によって失われた風景

例1) 『羊をめぐる冒険』（講談社文庫）

【五十メートルぶんだけ残されたなつかしい海岸線だった。しかし、それは高さ十メートルもある高いコンクリートの壁にしっかりとさみ込まれていた。そして壁はその狭い海をはさんだまま何キロも彼方にまでまっすぐに伸びていた。そしてそこには高層住宅の群れが建ち並んでいた。海は五十メートルぶんだけを残して、完全に抹殺されていた。】

例2) 『羊をめぐる冒険』（講談社文庫）

【僕は川を離れ、かつての海岸道路に沿って東に歩いた。不思議なことに古い防波堤はまだ残っていた。海を失った防波堤はなんだか奇妙な存在だった。僕は昔よく車を停めて海を眺めていたあたりで立ちどまり、防波堤に腰かけてビールを飲んだ。海のかわりに埋立地と高層アパートが眼前に広がっていた。】

例3) 『5月の海岸線』（講談社文庫）

【僕は運動靴を脱ぎ、靴下を取り、裸足になって防波堤の上を歩きつづける。ひっそりと静まりかえった午後の日差しの中に、近所の中学校のチャイムの音が響く。

高層住宅の群れはどこまでも続いていた。まるで巨大な火葬場のようだった。

(中略)

僕は預言する。

五月の太陽の下を、両手に運動靴をぶら下げ、古い防波堤の上を歩きながら僕は預言する。君たちは崩れ去るだろう、と。】

### (3) 架空の阪神間

アニメ『涼宮ハルヒ』や、同じ京都アニメーションのTVアニメ『けいおん!』の「風景」は、村上春樹作品の「風景」と同じ作り方をしている。実在の(記憶の)風景を組み合わせて、架空の世界を創造するやり方である。

これは、文学ではよく使われる方法である。

(例1) 小川国夫の大井川周辺世界「骨洲」は、フォークナー作品のヨクナパトーフア郡と同じく、実在の帰郷をモデルに架空の村を構築する作り方で生まれた。

(例2) アーサー・ランサム『ツバメ号』シリーズの湖水地方は、現実の湖水地方をモデルに、二つの湖を合体させて創り出された。

## 5. ハルヒとハルキの文体

谷川流の『涼宮ハルヒ』にみられる、村上春樹文体へのリスペクト→「やれやれ」

- (1) ハルヒの文体は、ハルキ文体と同じく、標準語一人称語りによる。
- (2) 方言をなくして舞台を架空の世界にする。語り手の情念を極力排してハードボイルドの語りにする。
- (3) そこに「一人ぼけつつこみ」という関西テイストがかすかにブレンドされる。
- (4) ハルヒのキャラは、ハルキのキャラと同じく、「非実在」系。
- (5) 『1Q84』と『消失』『エンドレスエイト』の共通点。『驚愕』はパラレルストーリーとして完成するか？

### ※資料編～西宮文学回廊HPより

《あらすじ:主人公の男子高校生キョンは、高校の入学式の日、「えらい美人」のに涼宮ハルヒに出会う。ハルヒは、キョンを強制して、長門有希らと共に宇宙人や未来人や超能力者を探し出して一緒に遊ぶことを目的とするSOS団を結成する。そのハルヒのために殺されそうになったり、変な世界に放り込まれたりキョンは振り回される。日常と非日常の世界が交差するハルヒ・ワールドの魅力あふれる作品。第8回スニーカー大賞受賞作品。

作品より引用

うすらぼんやりとしているうちに学区内の県立高校へと無難に進学した俺が最初に後悔したのはこの学校がえらい山の上にあることで、春だつてのに大汗をかきながら延々と続く坂道を登りつつ手軽なハイキング気分をいやいや満喫している最中であつた。

出典:角川書店より

初出:平成十五年 角川書店



ハルヒ達が待ち合わせ場所に選んだ「北口駅」のモデル、阪急電車の西宮北口駅。自転車置き場新設のため、すでにこの場所は無い。(後略)》

以上